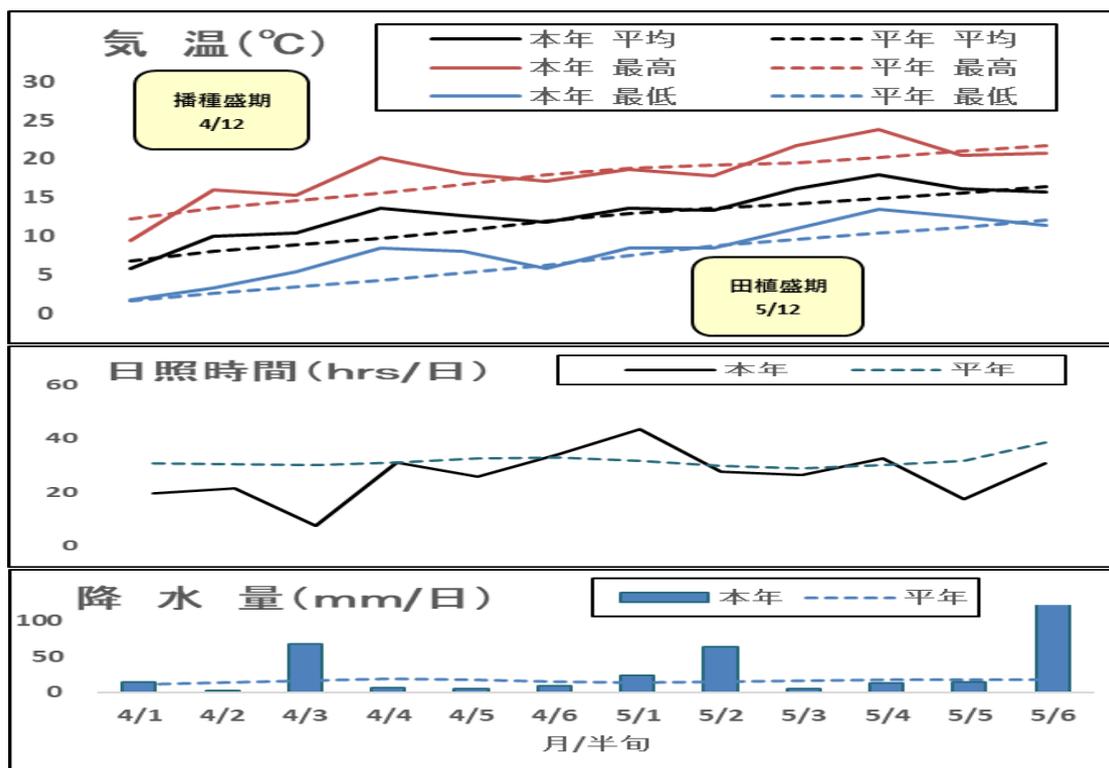


～田植の進捗は概ね平年並み 初期生育は平年並み～やや遅い～

～乾田直播は前年より遅い出芽揃い 初期生育確保が大事！～

1 令和7年の気象経過等（古川アメダス）



月	平均気温 (°C) (平年差)	最高気温 (°C) (平年差)	最低気温 (°C) (平年差)	降水量 (mm) (平年比)	日照時間 (hr) (平年比)
4	10.7 (+1.3)	16.0 (+0.6)	5.5 (+1.9)	104.0 (126%)	139.4 (73%)
5	15.5 (+0.4)	20.5 (±0.0)	10.9 (+0.6)	253.5 (247%)	178.5 (93%)

◆4～5月の気象データ(古川アメダス)

4月：気温はやや高く、降水量は多く、日照時間は少なかった。

5月：気温は概ね平年並み、降水量はかなり多く、日照時間はやや少なかった。

◆5月29日発表 東北地方の1か月予報(5月31日～6月30までの天候見通し)【気象庁ホームページより】

- ・期間の前半は、天気は数日の周期で変わる。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多い。
- ・向こう1か月の気温は、高い確率50%、平年並みの確率30%、低い確率20%。
- ・降水量は、多い確率40%、平年並み若しくは少ない確率30%。
- ・日照時間は、多い若しくは平年並みの確率30%、少ない確率40%。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	東北地方	向こう1か月 05/31~06/30	20 30 50
		1週目 05/31~06/06	30 50 20
		2週目 06/07~06/13	20 30 50
		3~4週目 06/14~06/27	20 30 50
降水量	東北地方	向こう1か月 05/31~06/30	30 30 40
日照時間	東北地方	向こう1か月 05/31~06/30	40 30 30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

## 2 田植の状況

- 田植盛期は、平年より1日遅い5月12日、終期は平年より2日遅い5月24日であった（概ね平年並み）。
- 5月27日現在の宮城県全体の田植進捗率は、97.4%であった。

### 田植状況(県全体)

区分	田植始期 (5%)	田植盛期 (50%)	田植終期 (95%)
本年	5月5日	5月12日	5月24日
前年	5月3日	5月12日	5月23日
平年	5月4日	5月11日	5月22日
平年差	1日遅い	1日遅い	2日遅い

## 3 生育状況

- 一部のJAが実施した生育調査（5月29日現在）によれば、移植時期によって多少の差はあるものの、草丈は平年並み～やや短く（15～20cm）、茎数は平年並み～やや少なく（70～100本/m<sup>2</sup>）、葉数は平年並み～やや少ない（3.5～5.5葉）。6葉が展開し始めたほ場では、分けつが始まっている。葉数からみた生育ステージは、概ね平年並み～やや遅いと推測される（高温で生育が旺盛だった令和6年と比べると、かなり劣っているように見える）。
- 育苗期間の高温・少照により徒長した苗も散見され、移植後の強風によって植え痛みが生じているほ場も見られる。
- 活着は、5月上旬から中旬に移植されたほ場では概ね順調だが、下旬植えは日照時間が少なかったこともあり、やや遅れている。

## 4 今後の管理

### (1) 水管理

- 強風や低温の場合は水深5～6cmの深水、晴天や高温の場合は水深2～3cmの浅水で管理し、苗の活着を促す。

- ・生わらや未熟堆肥を施用した水田では、ガス（ワキ）の発生や土壌還元によって、生育が抑制されることがある。田面からガスが発生しているほ場では、一時落水や間断かんがいをを行い、初期生育を促す。

## (2) 雑草防除

- ・除草剤散布後7日間は落水や畦畔からの漏水を防ぎ、かけ流しかんがいは行わない。
- ・近年は移植後に高温が続く影響で、雑草の生育も早まっている。そのため、防除のタイミングが遅れて、ノビエが大発生してしまうような事態も発生している。雑草の生育状況をよく観察し、除草剤の説明書をよく読んで早めに散布する。
- ・中期除草剤は使用時期の幅が狭く、水稻やノビエの葉齢に制限がある剤が多いので、ラベルをよく読んで使用する。
- ・ノビエやホタルイが残草すると、斑点米の原因となるアカスジカスミカメ等が水田内に侵入し産卵するので、防除を徹底する。

## (3) 病害虫の発生と防除【宮城県病害虫防除所 発生予報 第3号(6月4日発行)より】

### イ いもち病



- ・発生予報第3号によれば、いもち病（葉いもち）の発生開始期は「**平年並みの7月第1半旬**」で、発生量は「**平年並み**」と予想されている。
- ・補植苗を長期間放置することは、いもち病の発生源となるので、補植作業を終えたら速やかに苗を除去し、裏返す等、適正に処分する。5月29日現在、かなりの残苗が確認されている。

- ・飼料用米や直播栽培など、箱施用剤を使用していない場合は、各種水面施用剤を適期に散布する。

### ロ 本田初期害虫（イネミズゾウムシ）

- ・発生予報第3号によれば、イネミズゾウムシの発生時期（侵入盛期）は「**平年並みの5月第6半旬**」で、発生量は「**平年並み**」と予想されている。
- ・箱施用剤で防除を行った場合でも、下表の要防除密度を参考に、必要に応じて茎葉散布剤による防除を実施する。

表1 対象害虫の侵入盛期(平年)と要防除密度

害虫名	発生時期	防除時期		要防除密度
		本年推定	平年	
イネミズゾウムシ	侵入盛期	5月第6半旬 (5/26～5/31)	5月第6半旬 (5/26～5/31)	侵入盛期の成虫密度(畦畔際2m程度):100株当たり140頭 ※晩期栽培の場合は70頭

## 5 乾田直播栽培における今後の管理

### (1) 生育状況

- ・4月の気温は平年よりやや高い程度で推移したため、出芽揃いは前年（令和6年）よりかなり遅く、概ね5月第2半旬から第4半旬頃と見込まれた。



【5月23日 乾田直播 展示ほ 現地検討会(4月8日播種 ササニシキ 大崎市古川)】

- ・一部のJAが設置した展示ほの生育調査（5月29日実施）によれば、草丈は6～18cm，茎数は100～140本/m<sup>2</sup>，葉数は1.2～4.6葉程度で、前年より7～10日程度遅れている（概ね平年並みと見込まれる）。
- ・発芽しやすい「ササニシキ」は葉数の展開や茎数の増加が早く、発芽しにくい「ひとめぼれ」は逆の傾向にある。



【ササニシキ 3.5～4.0葉】



【ひとめぼれ 1.5～2.0葉】

- ・降雨の影響で播種作業が遅れ、5月にずれ込んだほ場では、ようやく出芽揃いを向かえたところも見られる。

### (2) 今後の管理

- ・出芽が揃わない場合は、ほ場全体に薄く水が行き渡るまで入水を続け（フラッシング），種子に水分を補給する。
- ・出芽が揃い、ほ場からの漏水が無いことを確認したら、5cm程度の水深を確保したうえで「初中期剤」を散布する（葉数は1.5葉期頃が目安）。除草剤散布後の水管理は、移植栽培と同様とする。